

ワンストップで支援

(株)商工組合中央金庫山形支店長兼酒田支店長

山下 千尋 氏



山形商工会議所並びに関係機関の皆さまには、日頃より当金庫業務に格別のご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。この紙面をお借りして御礼申し上げます。

私はこの4月1日に山形支店に着任しましたが、これまでの1年間は、山形県のもう一つの店舗である庄内・酒田支店の支店長を務めておりました。今後、山形・酒田両支店は支店長1名の兼務となりますが、県内情報の一元化、店舗間の連携等により、一層幅広く事業のお手伝いのできる体制作りに取り組んでまいります。

私は福井県に生まれましたが、転勤族であった父親の仕事の都合で、子どもの頃から全国各地を転々としてきました。当金庫に入社し社会人となってからは、東京・大阪、直近は静岡の支店で勤務しましたが、東北エリアでの生活は人生初めてとなります。今冬の庄内の雪には随分驚き、そして悩まされましたが、こうした四季の移ろいも含めて、仕事・プライベートともこの東北そして山形を存分に味わっていきたいと思います。

ところで山形県は、当金庫の創設に深く関わり、初代理事長を務めた結城豊太郎先生を輩出しています。先日、先生のご出身である南陽市

赤湯の記念館を訪れ、日銀総裁や大蔵大臣等を歴任し、日本の金融史上に大きな足跡を残したその功績に触れる機会がありましたが、当金庫にとって縁の深いこの地で仕事ができることに喜びを感じております。

着任後は、お客様の挨拶回りをしておりますが、同じ県内であっても、その土地土地で自然や経済・文化・言葉・食べ物に至るまで変化に富み、山形の多様性に日々驚かされています。“ここがふるさと”と呼べる場所がない私にとっては、愛着と誇りを持って、お国自慢をされるお客様を見ているとうらやましくもありますが、そうした地域にどっぷり浸かって、その発展に繋がる仕事ができることも、私にとってのモチベーションややりがいとなっています。

さて、新型コロナウイルスの感染拡大から1年以上が経過しました。飲食・宿泊・観光業の皆さまにとっては、依然先の見えない状況が続いていますし、多少好転の兆しが見えてきたとしても、今後の成長戦略を明確に描くことは簡単ではない状況です。

商工中金は、昨年3月から国の制度融資である危機対応制度の取扱いを開始し、新型コロナウイルスにより影響を受けた事業者の皆さまのご相談を承っております。また、最近では地域金融機関との事業再生・経営改善支援に関する業務協力契約の締結や、各支援機関との連携を一層強化し、足許の資金のお手伝いに留まらず、ウィズ・アフターコロナに向けた事業の継続・再構築に対してお客様と伴走して取り組んでおります。

また、コロナ禍で大きく進展したDX（デジタルトランスフォーメーション）をどのように事業活動に取り入れていくか、あるいは事業の承継をどのように進めていくか、といった事業上の様々な悩み・課題に対しても、当金庫をワンストップのポータルとして活用頂けるよう体制構築を行っております。

今後もお客様に寄り添い、山形県の実態に少しでもお役に立てるよう職員一同一丸となって取り組んでまいりますので宜しくお願いいたします。